

日本海底棲生物調査

担当者 漁業課長 田名部 政 春
技 師 富 永 武 治
" 十 三 邦 昭

I 目 的

本調査は日本海 瀬作崎海域における重要底棲魚類の時期別、漁場別、漁獲組成及び生態等の基礎的調査を行ない又、アブラツノザメの回游移動状況、沖合漁場の開発等も併せて実施し、底びき網漁業の発展に寄与する。

II 調査の方法

1. 試験船 瑞鷗丸 30.42トン, H 90 HP
2. 乗組員 船長以下9名
3. 調査期間 昭和40年4月1日～昭和40年4月20日
4. 調査海域 日本海(青森県沖合)
5. 漁 具 1艘びき機船底びき網漁具1ヶ統

III 調査経過

瑞鷗丸は前年度(39.11.27)に引続き日本海底棲生物調査を実施していたのであるが、本年度は調査船のクランクシャフト折損のため操業日数6日曳網回数38回(内曳網不能回数2回)に止まった。

IV 調査結果

本年度は前項の様な事情のため僅かの調査期間で本調査を終了したが期間中における魚種別魚種組成はヒラメ 534 Kg, タコ 27 Kg, カレイ類 246 Kg, アンコ 21 Kg, その他 128 Kgで総漁獲高は 956 Kgとなつている。

V 考 察

本年は思いがけぬ試験船の事故のため極く短期日の調査より出来なかつたが、深浦地区に於ける底曳網漁業の漁獲量は37年～39年にかけて漸増傾向をみせていたが、本年の漁獲量は 366.532 Kgで38年の99%, 39年の91%と稍少なくなつている。

深浦地区底曳網漁業の漁獲量は鯆ヶ沢地区底曳網漁業の漁獲量の漸増傾向に比べ深浦地区は横這状態となつているが鯆ヶ沢地区と経営形態が異なつているため最も堅実な漁業の一つとなつている。

底棲資源調査表 (昭和40年度)

月 日		4月5日	4月13日	4月15日	4月17日	4月19日
投網回数		7回	6回	7回	3回	7回
漁場	位置	鹽作 ^{WNW} 4湊	鹽作 ^{NW} 3湊	鹽作 ^{NW} 3湊	鹽作 ^{NW} 3湊	深浦 ^{N/W} 4湊
	水深	133 m	300 m			
	底質					
氣象	天候	C	B	C	C	C
	風向力	W 3	SW 2	ENE 3	SW 3	E 2
	気温	3.5°	7.0°	6.0°	11.0°	7.0°
	気圧	1016 mb	1024 mb	1016 mb	1019 mb	1022 mb
海況	水温	7.2°C	8.0°C	8.0°C	8.2°C	8.2°C
	透明度					
	汐流向	E 1	N 0.5	N 0.3	N 0.5	N 0.3
曳網長		片側1,500 m	〃 1,500 m	〃 1,500 m	〃 1,500 m	〃 1,500 m
曳網方向		E	N	E	ENE	ENE
漁獲物 kg	ひらめ	105 Kg	123 Kg	112 Kg	16 Kg	55 Kg
	むしがれい	30	42	38		34
	くちほそ	16				
	たこ		5	22		
	あんこ			14		
	やなぎがれい			38		
	その他	40	14	26	11	10
備考						